

平成 24 年度東京大学地震研究所職員研修報告

附属南西島弧地震火山観測所

平野 舟一郎

1. 期間

平成 25 年 1 月 23 日（水）～ 平成 25 年 1 月 25 日（金）

2. 会場

東京大学地震研究所（1 号館 2 階事務会議室）、気象庁

3. 参加目的

本研修は国立大学法人が主催する唯一の、地震・火山観測系技術職員を対象とした研修会であり、毎年同時期に開催されている。本研修に参加することにより、技術発表等で得た知識や、特別講演で学んだ内容等を持ち帰り、自身の業務に反映させることを目的とする。

4. 研修会の概要

・1 月 23 日（水）

開会式

技術発表会（主に口頭発表）

特別講演：山下 輝夫先生（東京大学地震研究所） 「地震のモデル昨今」

地震火山災害予防賞表彰式：中尾 節郎氏（京都大学防災研究所 技術職員）

地震火山災害予防賞記念講演：中尾 節郎氏 「地震観測 46 年間を振り返って」

懇親会

・1 月 24 日（木）

所外研修（気象庁における業務説明と見学）

業務説明（地震津波監視・情報発表業務概要、火山監視・情報発表業務概要）

地震火山現業室・火山現業室・判定室見学

全体研修

「データ流通に関する話」 講師：卜部 卓先生（東京大学地震研究所）

特別発表

「職員研修会 20 年の歩み」 研修運営委員会

技術発表会（主にポスター発表）

・1 月 25 日（金）

技術発表会（主に口頭発表）

特別講演：山科 健一郎先生（東京大学地震研究所） 「地震活動予測、火山噴火予測を目指して」

修了式

5. おわりに

全国の国立大学法人に於いて、地震・火山観測業務に携わる技術系職員は、工学部系技術職員等に比べて非常に少なく、例えば本学では筆者 1 人である。従って、日頃から業務に係わる情報交換の機会は乏しい。その中で、本研修会は同業種の技術系職員が集まる稀な場であり、自身の技術を向上させる為の、大変貴重な機会である。今回、研修を通して得た観測の技術・工夫・開発等について、今後の業務に反映することが出来るよう日々精進したい。また、今回は所外研修も実施された。近年ではデータ流通により、大学及び気象庁を含む他機関のデータが一元化されているが、我々大学が提供している波形データが、気象庁の第一線で活用されているのを実際に見学することが出来、引き続き質の高いデータを提供することの重要性を強く感じた次第であった。